

広報

256号

# 東京都製紙原料協同組合

発行所  
東京都製紙原料協同組合  
台東区台東3-16-1  
TEL (3831) 7980~1  
発行人 近藤 勝  
編集広報委員会



あたり一面が鮮やかな彩りに包まれる錦秋。

城南支部 (株)梶谷商事 梶野 泰一

## 〈 主 な 内 容 〉

時の視点	広報部副部長 高橋宏明	2	組合員の広場	16~17
静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会		2~5	「吹割の滝散策」頼末記 山手支部 脇 勝美	
東京都資源回収事業協同組合との懇談会		5~7	お知らせ	17~18
フィリピン視察研修会関係資料		8~9	「11月12月会議・歳事予定」「役員変更」 「新規組合員加入」「社名・代表者・住所変更」 「古紙価格」「訃報」	
東京都製紙原料協同組合 直納部主催		10~14	会議概要 [9月・10月]	18~29
視察研修レポート	青年部 工藤嗣人		編集後記	広報部部长 清水弘允 29
第47回清風会ゴルフコンペ開催		15	広告	30
支部便り		16		

## 時の視点

広報部副部長 高橋 宏明

ゴミの分別方法が地域ごとに違うのは、なぜ”なんだろう”か？ 環境省に聞くと、全国一律の分別方法を定めると、ゴミの処理ができなくなる自治体が出るのが予想されるために、統一基準を定められないそうです。現在は、分別方法のルールが地域ごとに定められたことにより、ゴミや資源の適正な処理ができています。

平成19年10月から東京23区の全区（モデル地区）で「家庭」から出る不燃ゴミ（プラスチック・ゴム・皮革製品）の「サーマルリサイクル」（20年4月からは23区の全地域）が始まりました。現在、不燃ゴミの約50%をプラスチック類が占めているそうです。石油資源からできているプラスチック類を東京湾にそのまま埋め立て満杯にさせることは、資源を無駄にするということで東京23区では、プ

ラスチックを可燃ゴミに分別して「サーマルリサイクル」をすることで（従来とおりペットボトル・食品トレーなどは、資源回収やスパーの回収ボックスへ）、資源を有効活用しているようです。

家庭から出るゴミの半分はプラスチック類ですが、23区から発生するゴミの半分以上は、オフィスや飲食店などから出る事業系のゴミです。事業者は法律によりリサイクルを徹底して、廃棄物を減量する責任があります。事業活動に伴って出た廃棄物は適正に処理をしなければなりません（事業者処理責任の原則）。そこで、許可を受けた処理業者（一般廃棄物業者・産業廃棄物業者・再生资源業者）などに委託をして処理をしてもらっているはずです。

家庭から出るゴミの収集は、原則として無料ですが（粗大ゴミ・臨時ゴミは別）事業系から出るゴミ・資源はすべて有料です。そこで、一般家庭から出る不燃ゴミはサーマルリサイクルで処理ができますが、事業系から出る産廃（ビニール・プラスチック・発砲スチロール）などは、出来る限り「マテ

リアルリサイクル」をして、処理ができないものはサーマル処理でも良いのではないかと思っています。

平成20年4月から東京23区の全所帯を対象に「サーマルリサイクル」が始まりますが、処理料金の方も4月から1kg 4円値上げをするそうです。内訳は、清掃工場への処理手数料が1kg 2円、収集運搬業者の運搬費の上限も1kg 2円上がるそうです（処理料+運搬費=上限1kg 32円50銭）。それで、清掃工場への持ち込み料金が1kg 14円50銭になり、減免の方は半分の料金だと思えます。今回の料金の値上げにより産廃の処理料の方も値上がりしなければいいのと思っています。

### 静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会

〔平成19年10月24日（月）午後2時30分～〕

於）富士工業技術支援センター大研修室

出席者：静岡県紙業協会家庭紙部会28名

（内、家庭紙メーカー20名）

静岡県製紙原料商業組合 4名

東京都製紙原料協同組合 9名

三団体代表挨拶

イデシギヨー(株) 井出代表取締役会長

〔静岡県紙業協会家庭紙部会〕

家庭紙は、製品価格の修正の方向で動いている。大手メーカーは減益で、家庭紙メーカーも悪い状況である。先日、静岡商組より要請のあった、メーカーの古紙の直接回収の件に関しては、紙業協会より理事会にかけ、要請が出ていると話をした。メーカー側としては、原料が間に合わないのが非常に厳しい状況であります。本日は原料についての話をしていただけだと思っております。

近藤理事長 〔東京都製紙原料協同組合〕

先日来よりお願いをしておりますが、支払の現金化、上古紙の価格修正につきまして、ほぼ実現いただきありがとうございます。去年より古紙の回収については、昨年よりさらに需給ギャップが広がっているにもかかわらず、輸出や国内メーカーのDIEP増設により原料の不足感が強まっている。当組合で定期的に会合を行っているが、7月に製本工組との会議を持ち、その中で、出版関係が売れ

ない、本のスリムが進んでいるとの意見があった。紙製品の価格が上がると発行部数が減ってしまう問題もおきている。今月、印刷工組を訪問した際も、組合員数が過去最盛期で3200社から、現在は1700社に減少していると言う話が出た。大企業もコスト削減で印刷物が減少に向かっているようである。

先日、当組合の直納部が主催する海外視察研修でフィリピンに行った。現地の製紙メーカー3社を視察したが、上質系古紙は大歓迎で欲しいとの要望があった。海外の古紙需要は、今後も変わらないと思われる。本日は、情報交換を含めお互いに今後の古紙需要対策等について探っていききたいと思っております。

佐野専務理事 〔静岡県製紙原料商業組合〕

先日来、お願いをいたしました古紙の直接回収について、本日、ご回答をいただきありがとうございます。静岡の16社統計で9月のデータでは、裾物3品で、8月は回収が良かったが9月は、新聞、雑誌の発生が悪かった。雑誌から色上に向ける物が少なかった。家庭紙と雑誌の分別についてインセンティブが働いているのか。これからは、選別を考え

ると雑誌に向かっているのか。本日は、情報交換を通じて話を進めていきたい。

古紙全般の市況について

上田直納部副部長 〔東京都製紙原料協同組合〕

裾物3品の輸出価格は、高値で推移している。国内価格も、3品ともじり高でタイトである。雑誌は選別の関係もあり、高価格で輸出価格が決められている。回収雑誌が高くなり、発生が低下しているのが現状である。

家庭紙原料について

小林色上委員長 〔東京都製紙原料協同組合〕

8月に価格改訂をさせていただいた後、わずか2ヶ月で再度実施されました要因として、中国向けの雑誌輸出価格の高騰によりまして産業古紙及びオフィス系古紙の雑誌化が再度促進される危惧が出ておりまして下店との交渉時でも少量すぐにプレス化出来ないの産業古紙は雑誌化しているとの説明を受けました。ただ今回の価格改訂によりまして、家庭紙向け古紙と雑誌の分別化が促進しやすくなると考えられます。しかしながら、大手の洋

紙、板紙メーカーの古紙調達に對しまして積極的な姿勢が見られます。現状の古紙発生状況が回復しませんと、家庭紙メーカーの古紙使用量の増量には対応しきれない実情が浮き彫りになると推測されます。参考までに東京協組で集計しています在庫状況を前年対比で比較しますと、平成19年2月から8月までは90%を越しておりますが9月は4、507トンで昨年対比87・7%と90%を割った事です。この様な現状ではタイト感を持っても不思議ではないです。

集荷部より 松井副理事長

〔東京都製紙原料協同組合〕

発生が悪い。単価が上がっても発生が悪いので仕事として成り立たない。製本会社、印刷会社でかなりの廃業が出ている。同業者でも廃業するところがあり、廃業した後に、産廃業者が変わりに入ってしまう事も。産廃だと紙とゴミの選別だけになってしまふ。製品の単価は、世界と比べると安いと思われるので、海外の製品との比較をアピールした方がいいと感じている。最近、機密文書が多く、メーカーで溶解しているケースが多いと思うが、徹底してもらいたい。

### フィリピン海外視察研修について

鈴木委員 〔東京都製紙原料協同組合〕

当組合の直納部主催の海外視察研修（フィリピン）に参加した。製紙メーカー3社を見学し、内、2社は、家庭紙原料と関りのあるメーカーを見学した。全般的に製品として作っているのは、トイレットペーパー、情報用紙、ノート、紙が多かった。

1社は、DIP設備が入っていて全量リサイクル。月刊生産3、000トンで原料の半分は、アメリカと日本から買っていて、残りを国内で調達している。主原料は、オフィスパック、ケント、シュレッター、携帯の説明書（パレット品の箱入りの物）で、人件費が安いので選別して使っている。ノリも抽出し、ビニール系を選別して使っている。出来た製品は、国内の使用で輸出はない。国内で古紙を回収するのは中国より遅れている。日本の古紙は価格が折り合えば欲しいと言っている。今後、大きなマーケットになりかねないと考えられる。

もう1社は、コンピュータ化されておりISOを取得している。単価が合えば、ケント、上白が欲しいと言っていた。コートは使いつ

らく、上ケントを一番欲しがっている。来年2月までコンスタントに10000トンは欲しいと言っており、大変、引き合いが強い。日本の品質が良く高い評価を受けている。

〔質疑応答〕 G（原料側）・M（メーカー側）

Q M：雑誌の選別について

A G：雑誌の価格が想定外で高くなっている。選別質と人件費の差を考えると、選別を止めてもコスト的に高くない。

問屋は、なるべく家庭紙を雑誌化したくないで選別するようにしている。すべての古紙が雑誌化すると、戻すのに大変時間がかかる。色上が雑誌と同価格になった時点で、色上を止めたところもある。

Q M：DIPで使っている上質古紙は、どのくらいになるのか。

A G：データが取れていないので分からない。新聞で間に合わない場合があり、オフィス古紙や込頁は家庭紙古紙に使われる。

Q M：8月の統計で見ると上質の古紙が13、000トンで内、11、000トンが東京近辺で輸出されているが、これからも古紙の輸出は増えるのか。

A G: ビニール入りのシュレッダー物は、そのままプレス化して輸出ができる。日本では雑誌にもならずグレードが低い。

雑古紙、雑紙でも中国は受け入れる。フィリピンに上白の8%を輸出しているがクレームがない。フィリピンで上白は教科書になっている。

Q M: 大手洋紙メーカーが家庭紙関係の原料を使うことが多くなってきて価格が上がってきた。今後、家庭紙向け原料が確保できるのか。

A G: 洋紙メーカーの動向がつかめていない。年間を通して古紙も発生にバラつきがある。発生物を扱っているので発生が悪いと供給できない。出版関係は停滞のみで、本の売れ行きも良くない。出てくる古紙も少ない。産業古紙も無駄を無くすようになってきている。前は、ケントに幅があったが今は、無駄が無くなってきた。かさはあるが量が無くなってきた。ミスプリントも無くなり、色上も減退している。産業古紙は発展的な期待はかけられない。

Q M: 上期に価格修正があり、下期も価格修正があるが予算でまかないたい。今年の10月

〜来年の3月までの原料事情と価格はどのようなのか。

A G: 今の古紙価格を今後、維持していけるかは分からない。需給バランスが決める事である。ただ、まだ、価格は天井ではない。関東には、古紙を扱う中国の代理店が沢山あり、輸出に対して積極的である。産廃業者がペーパーを入れて輸出をしているところもあり価格も上がってしまう。今は、中国の動向に振り廻されている。よほどの事がない限り、現状が続くのではないかと思われる。

Q M: パルプの今後の市況で増強は、いつ頃になるのか。

A M: パルプは足りなければ上がり、余れば下がる。中国の生産が増えている。増産しなくても価格は、下がらずに上がってきた。需要の方が旺盛で、パルプの市況は、下がる事はないのではないかと思われる。

### 東京都資源回収事業協同組合との懇談会

(平成19年9月12日(水))

於( ) 組合会議室 p.m.4:00

東京協組: 出席者14名

東資協: 出席者8名

近藤理事長挨拶(東京協組)

東京都資源回収事業協同組合さんは、東京の資源を回収する事業で長い歴史を持っていますが、私も東京協組も今年で51回の総会を迎え、現在228社10支部で組合活動を行っています。

組合員が毎年減少していく中、後ほど、組合員の動向問題や活性化の取り組み等について情報交換が出ればお聞きしたいと思っています。

限られた時間ですが最後までよろしくお願い致します。

新井理事長挨拶(東資協)

私どもの組合では、東京協組さんとは青年部を通じて交流がりましたが、親組合同士では今回初めての会合となります。

それぞれ上部団体や管理団体がある中で、同じ職域での回収業務を行っている組合同士でもあります。私どもは250社以上の組合員で構成されていることもあり、非常に会合が多いのも特徴であります。今の相場の展開がよい方向に進んでいるが今後状況が変わった

場合はどうなるのか、どうしたらいいのか、現在の状況を含めて情報交換をしながら話し合いをしていきなさい。

### 古紙業界業界の動向（東京協組）

#### 1、組合の活動について（坂田 事業部長）

組合のホームページによる広報活動をしている。支部が10支部あり賦課金が大きな財源である。その他で、組合会館のテナントへの貸与。保険会社とタイアップして組合員に対する保険事業での手数料収入。他組合と協力して高速道路利用割引による使用手数料とガソリンの給油割引による使用手数料収入等を主な収入源として運営をしている。今年には新たに労働時間等設定改善推進助成金制度にも参加し現在活動中である。

#### 2、古紙全般に関する現況と

##### 産業古紙の現況について

（赤染 直納部長）

古紙の輸出の現状が強くなってきており、相場としては8月、9月と高値更新をしている。国内の需給とのギャップがあり、古紙回収率が74・9%とメーカーの古紙利用率が

67・9%であり、年間400万トンの古紙が余剰してくる。古紙の発生減や秋からの大手メーカーのDIP稼働により益々、古紙の入手が困難になってきている。新聞に関しては価格の動きはないがスポット価格が横行している。今のところ新聞は、メーカー在庫を維持してきている。段ボールは、9月から価格修正があり各メーカーに段古紙が入らなくなってきている。中国の大手商社では、生産量を今の2倍に増やす計画があるので輸出せざるを得ない。その結果、注文量が増えてくる状況にある。産業古紙は、富士の家庭紙メーカーで8月16日から2円の価格修正があった。原料価格が変わることにより製品の価格が変化するのではないが、模造系統やオフィスパックは国内相場を上回る価格で輸出されているのが現状である。

#### 3、資源回収業界の動向（東資協）

今年から組合の賦課金を値上げした。組合の事業として7月頃より東資協カードと言う組合独自のガソリンカードを作り利用するようになった。

輸出事業は、月に約600トンで3社ほどの取引先とで行っている。

東資協の現在の問題点として、中野区が行政回収を止めて集団回収が変わった。事業系から出るゴミがシールを貼られなくて回収されてしまっているケースがあった。

組合には各委員会があって、業務委員では今、紙がどうなるのか等の取りまとめをしている。広報委員会では年6回広報誌を発行している。常任委員会では毎月の標準売値（集団回収の売値がいくらになるか）を出し組合員や行政、官庁等に知らせている。他に鉄の動向の調査をしている。

認定制度として再生資源登録事業者制度を3年ほど前からもうけている。目的として、業界が世間から見ても何をしているのか分からない事もあり、信用と認識が得られるよう作られた。

特徴として契約を前提としているので、契約がある人がこの制度を利用し間接的に抜取り行為を防止する。

\*（東京協組織）古紙業界としては、全原連による古紙リサイクルアドバイザー認定制度と古紙商品化適格事業所認定制度をスタートしたところである

## 4、質疑応答及び意見交換

(東京協組) 抜取り問題について

行政としてはパトロールをしているが、抜取りをしているのは、誰が抜取りなのか本職の業者なのか分からないのが現状である。区別をするのに集団回収時にトラックに表示を付けるようにするしかないようである。

横浜市内では、抜取り行為撲滅連合会があり抜取りから抜取る行為を防止している。

(東資協) 集団回収は逆有償が出来ないが前は、やり易かった。今は、やっているところと、やっていないところがある。

行政から支援金がなくなってきた。条件がいいところは支払っているが、区内処理が原則である。

(東資協) 価格について公表しているのか。

(東京協組) 月1度の理事会で知らせている。又、古紙センターでも全国的な価格を知らせている。

(東資協) 鉄、スクラップについては、鉄が足らなく相場的には伸びている。

## フィリピン視察研修関係資料

平成19年10月18日～平成19年10月21日

## フィリピン概要

労働者層の最低賃金は1日約1000円、中国の倍であり、ベトナムの3倍にあたる。

日本と変わらない価格もあれば、かなり安いものもある、平均すると日本の3分の1から5分の1程度で購入可能である。

フィリピンの人口が8500万人と言われていることから、海外出稼ぎ労働者の割合はかなり高い。

ちなみにフィリピンの国家予算が2兆円と言われており、日本の約40分の1である。

## フィリピンの紙製品、裾物古紙

フィリピンの通関統計には誤りが多いため、実際紙販売業者に納入されている数字から大雑把に算出すると、フィリピンの紙製品年間需要量はおよそ150万トンである。うち国内生産分が100万トン程度、残りの50万トンは輸入紙製品となっている。フィリピン国内ではコート紙の生産は採算が合わずやって

いないため、100%輸入紙製品に頼っている、その為コート紙のストックロットは最も売りやすい商品である。

古紙の年間輸入量は50万トンあり、そのほとんどはアメリカからの輸入である。日本からの古紙輸入量はここ2、3年JOCの輸入が止まっているため減少傾向にある。2003年には日本から58,000トン輸入されていたが、2006年には20,000トンへと落ち込んでいる。

その理由は短繊維の多いJOCの歩留まりにあり、長繊維をなるべく配合させたいメーカーの意向から、OCCは近年アメリカ、中東、オーストラリアからの古紙輸入のみとなっている。

ONP、MIXはTPOCなど大手新聞紙メーカーなどで需要があるものの、ヨーロッパ、オーストラリアからリーズナブルな価格で手に入るため、JONP、J-MIXはJOCと同様価格が合わない。生産規模からみても、フィリピンは他の輸入国と比べると裾物輸入古紙の需要は決して高くない。

## フィリピン向けの産業古紙

一方で産業古紙の輸入については年々着実に増えている。

前述したように、フィリピンでの裾物古紙需要の減少に伴い、日本の大手商社が古紙販売から撤退してしまったこともあり、2005年以降、日本からの古紙のほとんどを独占的にJOPがSS&I CORP.を経由して販売している。そのほとんどは産業古紙である。

2003年には産業古紙は500mt、1000mt/月程度しかなかったが、2007年現在、およそ2,000mt/月の産業古紙を日本から輸入している。

フィリピンが日本から輸入している主な古紙の品種はシュレッド、オフィスミックス、コミベ、摸造、中白、残本、ケント、白アールト、上白である。

ちなみに産業古紙の販売先のほとんどは脱墨機を有する洋紙メーカー向けであり、T-PCO、BATAAN、NOAH、FEDCOが該当する。

そのほとんどが国内向け学習ノート用途である。フィリピンの始学期に合わせて生産計画があり、家庭紙同様10月～4月が需要期となる。

中にはASIA PAPERなど脱墨機を持っていないメーカーもあるため、上白、白アールの需要は底堅い。

実際に一昨年から上白、白アールは毎月計500トン前後販売している。

フィリピンの製紙会社は小規模な会社ばかりだが、一方で中国やベトナムに無い、小回りの利いた商売を可能としている。たとえば富士の製紙会社のように、コンテナ12本の小ロットの輸出や、他の品種と相積みすることも相談ベースで対応してくれる。

また、フィリピンは中国に販売する時のようにASISの検査費用が発生するわけではないので、小ロットの輸出によるコスト損が少ない。また、フィリピンも中国同様に船足の速さから、日本からの輸入を好んで使っている（日本からの船足は57日程度、アメリカは1ヶ月程度）。

今後も日本の古紙（特に産業古紙）はフィリピンにとって重要な原料であり、日本にとっても中国、ベトナムを牽制するために必要なフットワークの良い販売先である。

## 訪問先について

NOAH'S PAPER MILLS, Inc.

マニラ市内のMarikinaという場所であり、市中心部から車で3040分程度である。

生産量2,500mt/月、生産品目はノート用紙、コピー用紙。

脱墨設備あり。古紙を使う事に関しては最も高い技術力を有している。

日本からシュレッド、オフィスミックス、摸造、込頁を5001000トン/月程度輸入している。

Bataan 2020, Inc.

マニラ市内のQuezonという場所であり、NOAHから車で30分程度である。

生産量8,000mt/月、生産品目はノート用紙、コピー用紙、中芯、新聞用紙。

マニラ市内にある中芯、新聞用紙工場と郊外にある洋紙工場の2工場ある。

洋紙工場ではコートがかかった古紙も使用している、日本からの輸入は摸造、込頁、ケント。

今回は中芯、新聞用紙を生産している工場を訪問。

MEGAPACK CONTAINER CORP.  
マニラ市内のValenzuelaという場所にあり、  
BATAANから車で30分程度である。

生産量5,000mt/月

同社のCONVERTING（段ボールの加工工場、製品の製作、印刷、プラスチック部門）センターの一角に古紙ヤード構え、国内OCCをメインに集めている。

CONVERTINGセンターには常時700名前後の人が働いていて、MEGAPACK全体では、1000名従業員がいる。

同社の製品はエプソン、テルモ、富士通等の仕事も請け負っている。

新規PROJECTで今月から別棟にてイギリスからDRY-WASTEと呼ばれる紙を輸入する長期契約を結んでおり、価格は\$85/mt程度とのこと。これを選び分けるため、アイルランド製のコンベアを入れて選別して価値を高めようと考えている。資金面ではLANCO（フィリピンの紙商では、3本の指に入る会社です）が資金を援助してくれるそうだ。

以上

東京都製紙原料協同組合 直納部主催

フィリピン視察研修会レポート

青年部 工藤嗣人

2007年10月18日（木）～10月21日（日）

マニラ泊4日

フィリピンとは・・・

7107の島々からなり、豊かな自然、ユニークな歴史と文化の宝庫です。きめ細やかな白浜のビーチ、美しい珊瑚礁や海、緑豊かな森林、歴史的建造物や遺跡とバラエティーに富んだ魅力があります。そして、各種マリンスポーツをはじめ、エンターテイメントやショッピングなども満喫できます。最近では自然保護を目的としたエコツーリズムでも注目を浴びています。

日本からフィリピンの玄関口マニラやセブへは飛行機でわずか4時間、国内においても飛行機はもちろん、船、鉄道、バス、車など交通網は発達しており、どこへでも自由に行き来することができます。

参加者

団長 美濃紙業（株） 近藤 勝氏

副団長 （株）共益・商会 赤染 清康氏

団員 18名

（商社 2名）

現地合流 2名

合計 22名

総勢22名で、製紙メーカーNOAH・BATAAN・MEGAPACK視察へ向けて10月18日～21日までの視察研修会をスタートしました。

10月18日（木）

フィリピン航空（PR）431便 成田9時30分発に乗り込むため、成田に7時30分に集合しました。JTB団体受付カウンター（E）に皆さん時間通りに集合でき、朝早いということもあり、スムーズに出国手続きができました。

出発1時間前くらいになると、431便のコンピュータ不良というアナウンスが流れ、出発が大幅に遅れました。結局3時間以上待たされ、不安を抱えながら12時50分頃無事に日本を離陸できました。

到着も定刻より4時間6分程度遅れ、現地時間17時頃マニラ国際空港に到着しました。

そこからバスに乗り込み、約1時間激しいバスの運転に耐えながら、何とか18時頃にエドサ・シャングリアに到着しました。

皆さん、かなりお疲れでグッタリなさっております。

19時にホテルロビーに集合し、今夜の夕食はフィリピン料理となりました。

また通ってきた道を戻って約1時間バスに揺られ、レストランに到着しました。

当初のホテルは、交通の便利なマカティ・シャングリアの予定でしたが、少しマニラ市内から離れたエドサ・シャングリアに変更になっており、バスで移動するたびに大渋滞の中をバスで移動するようになってしまいました。しかし、このホテル変更が功を奏するとは、誰もが予想をできなかったでしょう。

10月19日(金)

昨日の大幅な遅れがあったため、出発時刻を1時間遅くしてもらい9時集合出発となりました。8時に朝食をとり、少し疲れ気味でしたがバスに乗り込みました。

また、昨日同様な大渋滞の中を走り約80分程度で最初の目的地、NOAH. S PAPER MILLS. Incに到着しました。

トラックで運んできた古紙は、恐らく現地調達のものだと思います。(見るからにそうですが・・・)プレス機ではなく人の手や、木の棒などを使ってヒモで縛っていました。どのように下ろすのかと観察していると、何と！人の手で下していました。すべて下ろし終わるのに恐らく一日かかるのではと思います。

(写真)

プレス機も設置してありました。現在は、今年分の古紙を確保できたため稼働していないようです。敷地確保のためのプレスだと推測します。不純物はそれほど見当たりませんが、かなりのミックスです。

(写真)

B6サイズの文庫本まで8冊程度重ね背糊をカットしていました。残った背糊は燃料になるそうです。そう考えると、背糊まで古紙原料にする日本メーカーの技術力は凄いなと思います。右の写真は脱墨機です。恐らく日本の構造と一緒に、薬品の中に古紙を入れ下からバブルを出し浮き上がったバブルを取り除くといった感じでしょうか。

(写真)

製紙マシンは少し年代物ですが、問題無く稼働しているようです。しかし日本のマシンとは違って、人の手がそれなりにかかるようです。白色は思ったより良く、脱墨機の性能も良さそうです。

1時間程度の視察を終えNOAH. S PAPER MILLS. Incを出發します。

Bataan 2020, incへバスにて向かいました。クエゾン地区(Quizon)という場所にあります。ホテルからは1時間程度、NOAHからは30分程度で到着できました。

当工場は撮影許可ができませんでしたので、ホームページから抜粋して報告します。

(写真)

記念撮影後、Bataan 2020, incを後にし、次への目的地・MEGAPACK CONTAINER CORP.へ向かいました。

30分程度の移動時間予定でしたが、道を間違えたり、狭い通りを通ったりと、スリルと不安を抱きながら結局1時間近くかかりましたが、目的地に無事に到着できました。

(写真)

段ボール古紙ヤードです。国内で集められた段ボール古紙だと推測します。比較的良質な古紙だと思えます。

上の写真の左は電動ノコギリで一気にカットしています。右の写真はカットされた段ボール製品を型抜きのために一枚一枚プレスしています。かなりの気の抜けない重労働です。

上の写真は、プレスされた製品の型抜き作業をしているところです。

(写真)

30分程度の視察を終え、ホテルへとまた狭い道走りながら向かいました。日本にもイギリスから輸入しているような古紙？をオファーをいただきましたが、これほど分別していない古紙が排出されることは困難だと思う写真を拝見しました。産廃業者なら可能だと思えますが・・・

10月12日(土)

ホテルロビーに9時30分集合し、一日観光を楽しみました。

右下の建物は「マニラホテル」で、マツカーサーも宿泊したそうです。

市街中心部に広がる緑あふれるリサル公園で、左下の写真入口正面に立つのはフィリピン建国の英雄、ホセ・リサールの記念碑。儀仗兵が長時間警備にあたっています。敷地内には日本庭園、中国庭園などフィリピン群島の模型が浮かぶ人工池などが巧みに配されています。

(写真)

ホセ・リサルとは・・・

1861年生まれ。スペイン植民地支配の不当性を主張し「われに触れるなかれ」を発表。1896年銃殺に処せられる。銃殺時に

(写真)

は、祖国に背くことになるとして目隠しを取り、正面を向いて銃殺されたというフィリピンの英雄です。

16世紀、スペイン統治時代に造られた城壁都市跡・イントラムロス内に唯一残ったサン・アグスチン教会です。マニラにあつた多くの教会は戦争で失い、この世界遺産に指定されているフィリピン最古の石造建築の教会だけ現存しています。決して美しい教会ではありませんが、戦争の何かを伝えようとしている

ように感じました。

10月13日(日)

最終日、体調不良の方が多数いらつしゃいました。無事にマニラ国際空港に到着しフィリピン航空(PRR)432便に定刻前に乗り込むことができました。

帰りこそは遅れなく離陸できると思いましたが・・・

乗客1名乗り遅れがあり、結局1時間機内で待たされたの離陸となり、日本時間の20時50分頃着陸、近藤団長の挨拶があり、無事に解団となりました。

感想・・・

はじめてフィリピンを視察し、驚くことが多すぎました。思っていた以上の交通、車の多さには唖然としました。町もまだまだスラム的な場所が多く、衛生面でも厳しいところがあります。が発展を続ける国だと確信しました。恐らく10年後には高層ビルも増えているでしょうし、古紙メーカーの設備も充実していくことと思えます。

現在は、日本の余剰古紙を労働賃金の安いフィリピンへ輸出で対応していますが、今後

フィリピンの経済が発展していけば物価も上がり、賃金も上がっていくことでしょう。そうなれば輸出のみを頼っているのは難しい時代が一步一步近づいているように思えました。

第47回 清風会ゴルフコンペ開催

平成19年10月11日(木)第47回清風会が、茨城県富士カントリー笠間倶楽部にて開催されました。常磐道の水戸インター近くで若干遠方のゴルフ場でしたが、高速道路は空いているし、プレイング・フィーも安いし、コースのメンテも良く、お得なゴルフ場と言う印象でした。

当日は総勢11名の参加でいつもより寂しいコンペでしたが、3組に分かれ秋晴れにも恵まれ、楽しくゴルフを競いました。

コンペの結果は、赤松源裕さんが安定した好スコアを出し優勝されました。先日デイスカウト・ストアーに寄り、売り場でもっとも高額なドライバーを買い、ぶつつけ本番で使つての優勝だそうですから、余程相性のよいドライバーに巡り合えたのでしょう。おめでとう御座います。

ブレー後の反省会では、まず坂田会長からいつもながら元気なご挨拶を頂きました。また今後の清風会の運営に関し、より多くの理事及び理事OBが出席できる工夫が必要であると参加者から意見が出ました。具体的には年会費ではなく都度会費とし、欠席しても

次回気楽に出席出来る制度が提案されました。また清風会は理事と理事員が交流する数少ない場ですので、互いに声を掛け合い連れ立って清風会に参加したいと言う意見も出ました。

成績は次の通りです。

優勝 赤松源裕 (株)赤松商店

次回ハンディ14

準優勝 坂田 智 (有)坂田亮作商店

次回ハンディ22

3位 清水弘允 グリーンロジテック(株)

次回ハンディ9

4位 坂内大介 (有)宏栄紙業

5位 増田唯之 (株)増田商店

7位 近藤 勝 (株)美濃紙業

ブービー賞 工藤裕樹 (株)工藤商店

ニアピン賞 坂田亮作 近藤 勝

ドラコン賞 朝倉行彦 清水弘允

大波賞 増田唯之

小波賞 近藤 勝

ベスグロ 増田唯之

\* 次回は平成20年 春を予定しています。

\* 次回幹事 赤松源裕 工藤裕樹

## 支部便り

10月～12月の支部日程

千代田支部

支部会：10月5日(金) 11月5日(月)

忘年会：12月5日(水)

中央支部

支部会：10月12日(金) 11月12日(月)

忘年会：12月末日頃

文京支部

支部会：10月9日(火) 11月8日(木)

忘年会：12月10日(月)

台東支部

支部会：10月5日(金) 忘年会は未定

荒川支部

支部60周年記念祝賀会：11月18日(日)

上野精養軒

忘年会：12月10日(月) 東日暮里4丁目会館

足立支部

支部会：10月27日(土) 11月は開催なし

12月は未定

山手支部

支部会：10月19日(金)・11月19日(月)

忘年会：12月15日(土) 「鮭やなぎ」

城南支部

9月・10月は支部会開催なし

忘年会：12月1日(土) 「新橋亭」

江墨支部

支部会：10月19日(金) 11月20日(火)

忘年会：12月20日(木) 「吉野鮎」

城北支部

支部会：10月12日(金) 11月9日(金)

忘年会：12月14日(金)

## 組合員の広場

### 「吹割の滝散策」 顛末期

山手支部 脇 克美

本広報7月号の編集後記に書きました、私にとって残念な結果になった「吹割の滝」について行ってきました。

10月21日(日)には新宿(新宿区勤労者福祉サービスセンター)主催の日帰りバス旅行に参加させてもらいました。

当日は7時半に区役所を出発、約3時間ほど関越道を走り、沼田へ到着。近くの観光農園にてトマト、野菜狩を楽しみ、老神温泉へ移動しておいしい昼食と入浴をゆっくりとした

できました。私は風呂の後ビールを飲みたかったので、先に風呂へ入ったところなんと私一人の貸切状態、ノンビリ暖まりました。さて、2時からいよいよ滝の散策です。国道からしばらく階段を下りていくとドーと滝の音が聞こえてきて、その姿を見ることができました。落差はさほどでもありませんが、ただけ色付きはじめた渓谷とマッチして素晴らしい景色でした。渓谷沿いには遊歩道があ

(写真)

り、下流に少し歩くともう滝が見えそこは「鱒飛びの滝」というそうです。上から覗いてみると結構迫力もあり、記憶に残る景色となりました。何年か見たいと思っていた光景を目のあたりにすることが出来、大変満足のいく1日でした。

帰路は少し渋滞にもあいましたが8時過ぎには新宿まで帰ってこられました。問題は朝採った野菜でした。目一杯バスのトランクに詰め込んであったキャベツ、ハクサイ、トマトは殊の外肩にズッシリ重くふらつきながら帰宅しました。

# お知らせ

〔11月会議・催事予定〕

11月1日(木) 青年部主催「東京製本二世連

合会」との懇談会 (pm 7:00

～) 後楽園スパ・ラクーア内

酣(TAKENAWA)

11月2日(金) 常任理事会 (pm 2:30～)

理事会 (pm 4:00～)

組合会議室

11月15日(木) ～21日(水) 全原連需給委員

会「海外視察・インド」

11月18日(日) 荒川支部創立60周年記念祝賀

会 (pm 12:00～) 上野精養軒

11月19日(月) 古紙センター関東地区委員会

(pm 2:00～)

古紙センター会議室

11月22日(木) 古紙センター業務委員会

(pm 1:30～) 全原連役員会

(pm 2:30～) 古紙センター

会議室

〔12月会議・催事予定〕

12月2日(日) 青年部主催 組合ゴルフコン

ペ ゴールド佐野カントリー

クラブ 8:35スタート 8組  
予約中

12月3日(月) 常任理事会 (pm 2:30～)

理事会 (pm 4:00～)

組合会議室

12月6日(木) 清風会忘年会 (pm 6:00

～) 東天紅8階「ルーキス」

12月12日(木) 直納部忘年会 伊豆栄梅川亭

(pm 6:00～)

12月29日(土) ～1月6日(日)

組合事務局・年末年始休暇

〔役員変更〕

当組合顧問 鳩山 邦夫

平成19年10月5日付にて辞任

〔新規組合員加入〕

平成19年11月1日付で加入

足立支部 長村 紙業 長村 久道

足立支部 近藤 紙業(有) 近藤 繁樹

〔社名・代表者・住所変更〕

「山手支部」… 当原紙業(株)の 社名及

び住所変更(平成19年10月1日より)

新社名 王子浮間古紙センター株式会社

新住所 北区浮間5 11 7

「城北支部」… 豊商産業(有) 前代表取締役  
社長 平井 忠臣 様の 代表者変更(平成  
19年10月より)

新代表者 代表取締役社長 平井 禎一

## 〔古紙価格〕

〔東資協の古紙4品の標準売値〕

平成19年10月9日現在

\*新聞 10～12円 (上昇)

\*雑誌 8～9円 (上昇)

段ボール 8～11円 (上昇)

色上(並) 6～9円 (上昇)

「古紙品質調査事業」

平成19年10月～12月価格

〔新聞 古紙〕 14、000円/トン

〔段ボール 古紙〕 15、000円/トン

## 会議概要〔9月・10月〕

9月度定例理事会〔平成19年9月3日(月)〕

出席理事26名 於)組合会議室

pm4:00

近藤理事長挨拶

7月8月と私を含め副理事長と共に支部会へ参加させていただきました。引き続き、まだ、行っていない支部へ行けたらと思っております。「古紙商品化適格事業所認定制度」に関しましては、全原連の準備が遅れ9月からスタートとなりますが、是非、1人でも多く、この認定を受けていただきたいと思います。7月には、製本工組との古紙関係協議会も持ちました。8月には返本加工協同組合の総会に参加させていただきました。9月には、東京都資源回収事業協同組合との会合もあり、非常に忙しいスケジュールが続いています。本日の会議もよろしくお願い致します。

〔各部報告〕

〔総務部〕

事務局の職員として8月21日より濱谷敬子さんが入社したので、ご紹介します。

組合会館の土地の賃貸借更新契約について7月の理事会で承認をいただいたので、更新することでの処理をしていく。

7月に台風があり組合会館の3階のテナントで(株)悠和で雨漏りがあった。原因は、4階バルコニーと屋上の防水状態と考えられ、8月に修繕を行った。また、雨漏りの際、コーピー機が損傷し代替品を購入したので費用がかかった。また、天井裏の雨漏り調査と天井板と床のタイル交換をしていないので今後、テナントの都合に合わせ修繕していく予定である。

〔直納部〕

10月18日から4日間海外メーカー工場視察研修に行く。行き先はフィリピンのマニラで家庭紙原料のケント、模造、オフィスバック等を実際に使っているメーカー、板紙メーカーに行く予定である。9月18日(火)に研修参加者を対象とした説明会を開催するので、その時に詳しく説明する。

市況については、古紙全般は、特に裾物を中心にタイトな状況が続いている。一部メーカーでは輸出価格なみの価格が出ているところもあると聞いている。8月の関東商組の輸出価格は、段ボールがトン表示で17、620円が一口と、もう一口が17、770円。新聞が19、410円、雑誌が13、610円となっている。直近の9月向け輸出価格が中部商組でダンボール、雑誌、希望価格18、350円で前月比、段ボールがトンで450円、雑誌640円。一時、円高になったが、相変わらず中国向け需要は好調である。家庭紙原料は8月16日から2円の価格修正があった。

〔品種別市況報告〕

〔裾物三品〕 裾物三品は、8月と同じで強含みの状況で高止まりである。メーカー在庫はバラついている状況である。国内で強いメーカーは輸出対応で対処しており、秋には購入していきたいようである。今後、流れは悪くならない模様であると考えられる。

〔家庭紙原料〕 家庭紙メーカー向け原料は8月16日から2円の値上げがあった。それにつれ洋紙メーカーも追従してきた。7月、

8月は産業古紙の発生が悪く、メーカーからは供給について何とかしてほしいとの要望があつた。価格修正により輸出の雜誌化の防止にある程度、役に立ったのではないかと考えられる。現在は、対国内の洋紙メーカーの動向により不安定な市況になってしまふ。生産については、富士の家庭紙メーカーを中心に、秋以降に稼動する計画がある。希望どおりに製品価格が上がってきていないのでタオルペーパーの競争が激化してくるのではないかと思われる。

〔集荷部〕 発生が非常に落ちてきている。特に8月のお盆頃が大きかった。洋紙メーカーへ家庭紙の原料が動いている。単価が上がりすぎると買いが悪くなる。最近、競り込みのような形が少し出てきている状況である。

〔広報部〕 9月号の準備に入っている。東京都資源回収事業協同組合との懇談会の記事や東京返本加工協同組合の総会の記事等をメインに掲載しようと考えている。他に、各支部で行われた納涼会も掲載する予定です。

〔事業部〕 労働時間等設定改善推進助成金

制度の経過報告とアンケートを含む今後の予定について説明（ISOコンサルティグオフィスより）

〔青年部〕 理事会の後、幹事会（9月3日）を開催し、青年部主催のゴルフコンペについて詳細を決めたい。

〔その他〕

古紙商品化適格事業所認定制度と古紙リサイクルクアドバイザー認定制度が全原連レベルでスタートしますが、申請用紙の送付が9月に入ってからになるので、届いたら、是非、参加してほしい。

古紙センター

関東地区委員会（平成19年9月19日（日））  
pm2:00 於）古紙センター会議室

〔需要動向〕 07/8月 単位トン、

（ ）は対前年同月比、在庫の（ ）は在庫率

〔関東商組32社実績〕

〔新聞〕

仕入	87、179 (103・5%)
出荷	87、725 (101・4%)

在庫 8、853 (10・1%)

〔雑誌〕

仕入	59、190 (101・3%)
出荷	58、526 (101・0%)
在庫	6、518 (11・1%)

〔段ボール〕

仕入	133、859 (100・5%)
出荷	132、698 (99・9%)
在庫	10、643 (8・0%)

〔関東・静岡実績〕

〔新聞〕

仕入	254、825 (103・2%)
消費	267、050 (103・8%)
在庫	206、877 (77・5%)

〔雑誌〕

仕入	116、782 (89・4%)
消費	119、292 (97・5%)
在庫	59、178 (49・6%)

〔段ボール〕

仕入	317、491 (107・8%)
消費	301、803 (106・5%)
在庫	100、960 (33・5%)

〔業者側コメント〕

〔新聞・雑誌〕 新聞は7月が前月と前年対比

で99%、8月が前月95%、前年で101%。全体の発生では、輸出が20万トン減少している。発生については間違いなく増える状況にある。チラシは8月前年同月比98%で減少傾向。

雑誌は国内入荷が増える。輸出が125%で前年より23万トン増えている。雑誌とチラシで35万トンの増加。雑誌は順調で増える傾向にある。雑誌は中国輸出に傾いている。年内に前年割れがおきる可能性があるので供給を考えていかなければいけない。

〔段ボール〕 段ボールの社の入荷は、昨年とほぼ同じ100%、5%。入荷してすぐ出荷は変わらない状態である。輸出は、111%で昨年より1割上回る。メーカーは105%ぐらいで消費が伸びる。段ボールは足りない状況が続くのではないか。

〔メーカー側コメント〕

新聞は、8月の在庫は少ない状態でのスタート。消費は前月より2万トンプラスで活発になる。在庫は99.4%で高い比率でメーカー在庫は、しつかりある。  
段ボールの生産は、7月前年対比で103.5%、8月前年対比で101%と予想の割に伸

びなかった。段ボール古紙のメーカー在庫は、7月末は、かなり落ちた。8月は、まずまずの入荷で全体的には在庫増。9月は全体的に入荷不良なので後半に入荷増を期待している。

古紙センター

業務委員会(平成19年9月27日(木))

pm1:30 於 古紙センター会議室

(1) 平成19年10月～20年3月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画

(2) 古紙の需要・市況動向について  
紙面の都合により詳細数字は割愛させていただきます。

(3) 古紙品質向上対策検討委員会の平成19年度実施計画について

(4) 集団回収実施団体への感謝状交付について

全原連役員会(平成19年9月27日(木))

pm3:00～4:30 古紙再生促進センター

理事・監事56名:出席42名(内、委任出席5名)欠席14名

(1) 古紙再生促進センター関係

平成19年度国庫補助調査事業委員候補者推薦

\* 古紙利用率向上促進対策調査委員会: 大久保信隆、瀧本義継、長崎隆男

\* オフィスリサイクル状況調査委員会: 新井勝男、小六信和、長崎隆男

\* 古紙利用新規用途開拓調査委員会: 上田雄健、長崎隆男

業務委員会(9月27日開催)。  
\* 平成19年10月～20年3月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について。

段ボール: 10月～12月前年比100.7%、1月～3月: 99.3%、10月～3月: 100.0%

新聞: 10月～12月前年比106.2%、1月～3月: 107.7%、10月～3月: 106.9%

雑誌: 10月～12月前年比 99.8%、1月～3月: 100.9%、10月～3月: 100.3%

\* 古紙品質向上対策検討委員会(9月12日開催)の平成19年度実施計画について。

( ) 委員会の設置経緯と目的 ( ) 委員会の構成 ( ) 委員会の検討内容

( ) 委員会の実施スケジュール

\* 集団回収実施団体への感謝状交付について  
推薦地区委員会: 中部地区委員会(5団体)

<p>＊イベントの予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙リサイクルセミナー：10月30日（火）13:00～16:00虎ノ門・発明会館ホール</li> <li>・リサイクルペーパーフェア：11月2～4日イトーヨーカドー甲府昭和店</li> <li>・エコプロダクト2007出展：12月13～15日東京ビックサイト東展示場</li> </ul> <p>（全原連協賛につき渉外広報委員会に協力依頼）</p> <p>（2）経済産業省関係</p> <p>輸出入統計品目表の改正案に対する要望について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新聞のもの」470730 10、「その他のもの」470730 90 従来通りの要望書提出。</li> </ul> <p>合同古紙ヤード見学実施について</p> <p>開催日：平成19年8月28日（火）</p> <p>見学者：経済産業省製造産業局 荒木課長補佐、尾里古紙係長</p> <p>古紙再生促進センター 堀常務理事</p> <p>王子製紙(株)研究開発本部 中嶋マネージャー 他4名</p> <p>案内者：関東商組 深田理事長、こづか(株) 小塚社長</p> <p>視察ヤード：(株)國光（横浜事業所・横須賀事業所）、こづか(株)（横浜南事業所）</p>	<p>横濱市施設（中・港北両ヤード事務所）</p> <p>経済産業省・正副理事長懇談会（9月21日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古紙の現状状況説明及び認定制度進捗説明を行う。</li> </ul> <p>（3）正副理事長会（9月21日開催）</p> <p>総務財務委員会（9月20日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月までの総務財務内容予算通り順調に推移。</li> </ul> <p>余剰対策検討会設置及び委員長、委員（案）に関する件（役員会へ承認）</p> <p>委員長：栗原理事長</p> <p>委員：矢倉副理事長・石川副理事長・深田副理事長・佐藤副理事長</p> <p>近藤副理事長・大久保需給委員長・瀧本経営革新委員長</p> <p>山室IT推進委員長・藤川渉外広報委員長</p> <p>＊委員会開催は原則として全原連総合運営委員会開催時に行う。</p> <p>エコアクション21取得支援研修会各単組で開催</p> <p>北海道商組5社、東北協組8社、関東商組</p>	<p>29社、東京都協組13社、神奈川県協組4社、静岡県協組16社、中部商組23社、近畿商組10社、九州商組10社：計118社</p> <p>（4）総合運営委員会（9月21日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊各委員会進捗状況報告（近代化推進事業関係報告同様）</li> </ul> <p>（5）近代化推進事業関係</p> <p>経営革新委員会</p> <p>安全推進事業関係</p> <p>＊平成19年度「秋の作業安全月間」リーフレット配布（9月下旬予定）。</p> <p>「現場が主体的に取組み作業安全」とし、「安全十則」に併せて各事業所の安全規則を記入できる工夫をした。</p> <p>＊「安全手帳」作成（10月中旬配布予定、配布数量2万冊、販売単価1冊100円）。</p> <p>＊「火災予防月間」実施については、平成20年11月とし、本年度は事業所認定に伴う「防火管理責任者」設置の啓蒙にとどめる。</p> <p>「エコアクション21」合同認証取得実施事業関係</p> <p>＊年度内認証を目標に全国120事業所が参加進行中。認証取得費用は各事業所の社員数により異なるが25～30万円。</p>
---	--	--

<p>* 全原連で講師の派遣費用（北海道地区以外交通費、日当）に伴う支援をお願いする（概算費用300万円を限度とする、役員会上程へ承認）。</p> <p>認定制度関係</p> <p>* 第1回認定会議を10月25日に変更、以降20年3月まで実施。</p> <p>* 申請は毎月15日（土日祝日の場合は前日）とし、認定会議時事業所認定100事業所、リサイクルアドバイザー認定500名を目標として実施する。</p> <p>* 平成20年3月末認定目標数</p> <p>事業所認定1、000事業所、リサイクルアドバイザー認定2、000名</p> <p>* 認定会議実施方法（案）</p> <p>認定会議：全原連役員会終了後名称変更する。</p> <p>認定委員：委員長（全原連理事長）委員（全原連理事）</p> <p>認定条件：全原連加盟単組推薦認定とし、認定会議は原則追認会議とする。</p> <p>* 認定証・認定書・認定プレート配布</p> <p>認定会議終了後60日程度で配布予定。</p> <p>需給委員会</p> <p>海外視察調査について</p>		<p>* 全原連としてお土産代、報告書作成費用のみを負担する。</p> <p>2007年古紙需給予測</p> <p>* 4月需給予測4、041千トンと予測したが、9月見直しで4、163千トンと予測する。</p> <p>IT推進委員会 9月6日開催、四国地区）</p> <p>製紙原料卸システムについて、現在121事業所が稼働、四国地区は現在導入なしのため今後拡販する。</p> <p>サポート保守サービスについては無料で実施予定。（対応時間は検討中）</p> <p>渉外広報委員会 8月3日開催、近畿地区）</p> <p>全原連「ロゴマーク」9月14日登録完了。</p> <p>各地区自治体のごみ減量化施策調査実施の勉強会。</p> <p>講師：山上春美大阪府紙料協同組合理事長、</p> <p>議題：行政の廃棄物政策への取り組み</p> <p>「循環型社会の古紙リサイクルプラン」</p> <p>（18年3月作成）の追跡調査を開始。</p> <p>次回開催：役員会</p> <p>平成19年10月25日（木）14：45～16：15</p> <p>役員会</p>
		<p>平成19年11月22日（木）14：45～16：15</p> <p>新年会</p> <p>平成20年1月25日（金）浅草ビューホテル</p> <p>尚、役員会の後、認定会議を開催する。</p>
<p>〔各部報告〕</p> <p>〔総務部〕</p> <p>支部長会は、特に日をあらためて支部長会をもつげず、常任理事会にて支部の報告をする事</p>	<p>10月度定例理事会（平成19年10月3日）水）</p> <p>出席理事 26名 於）組合会議室</p> <p>pm4：00～</p> <p>近藤理事長挨拶</p> <p>組合の方針として進めてまいりました他組合との会合について、9月に東京都資源回収事業協同組合との懇談会が実施されました。10月17日には東京都印刷工業組合を訪問し、新たな会合を持ちたい話をする予定です。来月には静岡県紙業協会家庭紙部会との会合が控えており、今後、それに向け集直正副委員長会議や直納部会と今月も忙しい日々が続いていくと思われませんが、本日の会議もよろしくお願い致します。</p>	

とした。

〔直納部〕

10月18日から4日間海外メーカー工場視察研修（フィリピン）に行く。総勢20名でマニラの製紙メーカー3箇所を見学する予定である。10月22日直納部共販合同委員会は、24日に開催される静岡県紙業協会家庭紙部との懇談会に向けて話し合いをしていきたいと思っています。共販については、組合補てんと今後の共販事業の方向性について話し合う予定です。

市況については、関東商組の価格で段ボール、雑誌が同価格で19・43円、新聞が20・27円。こういった状況なので直納部としては、相場の面で注意していかなくてはいけない。

〔品種別市況報告〕

〔上白〕 発生は減っている。国内で品質が悪ければ輸出に廻ってしまふ。

〔家庭紙〕 7月・8月の発生は悪かった。

9月も期待したが発生は悪かった。家庭紙は需要期に入り稼働を始めていて、古紙が非常に逼迫している状況である。各家庭紙メーカーは、価格面を考慮しながら調達に走っている。タイト感が強くなってきている。

〔段ボール〕 段ボール原紙価格が値上がり

し10月から個々の価格修正に入っている。中国の製品市況は変わっていないで古紙の価格だけが上がっている状況である。雑誌古紙も非常に高く、ちょっと行き過ぎの感がある。警戒感を感じながら対処していくべきではないか。

〔新聞、雑誌、切付〕 新聞・雑誌は、非常に高値で輸出価格が続いている。国内でもメーカーが買いに出ているので高止まりになるのではないかと思われる。

切付は、雑誌と状況がリンクしている。雑誌価格は高止まりで、切付価格は、雑誌と比べると安い状況である。特更メーカーは非常に寂しい状況が続いている。製品の価格修正は、中小出版社は、揃った感がある。大手出版社は、今回は価格修正が通っていないようである。切付は、雑誌、新聞の変わりに洋紙メーカーが使用している。需要に関しては問題ない。

〔上台紙〕 上台紙が裾物の中で一番安い状況である。上台紙と雑誌では雑誌の方が高いが、上台紙の発生が少し良くなった。

〔返本雑誌〕 返本の発生は、昨年対比で横這いである。販売の方は8月に2円の価格修正があった。昨年は、週刊誌を売るために表紙

にビニール貼りが増えた。背のりコート紙が出てきた。本が売れないので今後、当分は返本が増える事がないのではないかと思われる。

〔オフィス古紙〕 9月は発生が悪かったが10月に入り発生が増えてきた。雑誌に白い物が混じってきたので、今後は元に戻すことを考えていかなくてはいけないと思っている。

〔集荷部〕 製本物に関しては発生が増えていない状況である。9月は全体的に発生が良くない。現在は、価格面で助けられているが、古紙の価値感を大事にしていけないといけないと思う。抜き物が増えてきている。10月は、発生が少ないが月末に増えるのではないかと予測している。買いを多くするようにしていきたい。

〔広報部〕 ここどころ広報の発送が遅くなっている。11月号は11月の中旬に発送する予定で準備に入っている。

永年勤続の表彰を受けた会社の方に原稿を書いてもらい掲載を続けていきたい。又、各支部の、ここ3ヶ月（10月～12月）の日程を掲載していきたい。

〔事業部〕 本日、富士地区貨物運送事業協同組合が来社した。原油高によるコストアップで運送業者がまいつている。原油が上がった分、ドライバーの給与を減らして対応している現況を伝えに来た。

東資協の業者対応についての制度の説明があった。同じようなことで、当組合では、古紙リサイクルアドバイザー認定制度と古紙商品化適格事業所認定制度が始まるので是非、参加をしてほしい。

来年の合同新年会を1月26日(土)に東天紅で行う。

〔青年部〕 ホームページのグーグルマップの紹介。

11月1日に製本工組二世との交流会を後楽園のラクーアで行う予定なので青年部に関係なく参加して欲しい。

青年部主催のゴルフコンペを12月2日(日)ゴールド佐野 8時半スタートで8組とつてある。

集真正副委員長会議

〔平成19年10月15日(木)〕

出席委員14名 於)組合会議室 p.m.4:00

1、直納部

国内外で古紙の争奪戦が続いていて価格が右肩上がりである。富士の家庭紙メーカーでは10月の半ばから家庭紙原料の2円の価格修正が出揃ったようである。製品の価格修正も追従してもらわないと困る状況になってきた。

共販輸出は、8月・9月と1円50銭/kgの組合助成金で補てんをする。10月は、店頭渡しで2円50銭の価格修正で20円/kgとなる。

18日からフィリピンへ海外視察研修に行くが、2コンテナ分のテスト品を現地に送っている。現地に行つてはつきりすると思う。

〔上白〕 産業古紙全般に発生は少なく非常にタイトである。上白は品質面で問合せが多く上白、特中白ともタイトである。

〔家庭紙〕 発生が非常に少なくタイトである。価格修正については、洋紙メーカーが買い求めたため、すんなり修正したのか。しばらくは、輸出より国内の方が高いのではないか。

〔切付〕 価格格差が大きく、雑誌に変えなければいけないほど上がっている。

〔返本、雑誌〕 9月に入り決算月ということ出荷は多かった。返品もそれほど出ていないので、返品のピークは10月になるのではないかと思われる。

〔オフィス古紙〕 オフィス古紙は3月〜8月が発生期で9月〜2月は落ちてくるが12月に少し出る。すべての古紙に関連性が出てきているようである。

〔上台紙〕 雑誌の輸出に引っ張られているのが現状。

2、集荷部

発生が少なく、夏場から平均的に悪い。価格修正は、ありがたい反面、発生が少ないので競争も激しく大変である。

できれば、あまり過当競争しないでいきたい。古紙のグローバル化が進んで、国内で使えない物でも、中国では受け入れるようである。

古紙センター

関東地区委員会〔平成19年10月18日(木)〕

p.m.2:00 於)古紙センター会議室  
〔需要動向〕 07/9月 単位トン、

( ) は対前年同月比、在庫の( ) は在庫率

<p>〔関東商組32社実績〕</p> <p>〔新聞〕</p> <p>仕入 87、506 (102・0%)</p> <p>出荷 86、345 (99・4%)</p> <p>在庫 10、014 (11・6%)</p>	<p>〔雑誌〕</p> <p>仕入 59、071 (99・5%)</p> <p>出荷 58、787 (99・5%)</p> <p>在庫 6、802 (11・6%)</p>	<p>〔段ボール〕</p> <p>仕入 130、966 (97・5%)</p> <p>出荷 130、473 (97・1%)</p> <p>在庫 11、136 (8・5%)</p>	<p>〔関東・静岡実績〕</p> <p>〔新聞〕</p> <p>入荷 238、420 (100・1%)</p> <p>消費 250、202 (102・0%)</p> <p>在庫 195、095 (78・0%)</p>	<p>〔雑誌〕</p> <p>入荷 113、008 (87・5%)</p> <p>消費 124、459 (101・4%)</p> <p>在庫 47、727 (38・3%)</p>	<p>〔段ボール〕</p> <p>入荷 312、532 (106・7%)</p> <p>消費 315、967 (104・8%)</p>	<p>在庫 97、525 (30・9%)</p> <p>〔業者側コメント〕</p> <p>〔新聞・雑誌〕 新聞は、32社の実績を見ると大きな変化はなし。新聞はチラシを含めた配達量が、9月は対前年と前月で110%と同じである。数字的に見ると若干、回復するのではないかと思われる。仕入状況は、高値よりである。雑誌は、11月に向かってやや下り勾配で変化なし。平均購入価格は上がっていくのではないが。</p>	<p>輸出については、新聞は順調に在庫を増やしている。価格差が開き、平均購入価格は上がっていくのではないか。仕入の条件等で、今の状況が長期化すると問屋のヤードの構造変化がおこるのではないか。中国は、紙製品は輸出戦略をとっており需要状況は変わらない。</p>	<p>〔段ボール〕 段ボールは、32社では相変わらず、仕入、即、販売の流れである。前年を下回っているが、二次問屋の内格差、内々の格差で高い価格で販売している。仕入先行型の価格帯が続いている。抜本的に見直さないと中国メーカーに取られてしまう恐れがあると思われる。日本のメーカーが主導権を握りリーダーしてもらいたい。価格差が広がりす</p>	<p>きているのが現状である。</p> <p>〔メーカー側コメント〕</p> <p>新聞は、9月の入荷が悪く消費も少ない。在庫は5%落とした。10月に入り発生は9月よりは多い。</p>	<p>段ボールは、9月は稼働日から見ると前月と同じような動きであった。10月は、生産がプラスで動いている。出荷は減ったが、生産は増えているので在庫が増えた。</p>	<p>直納部委員会議 (平成19年10月22日(月))</p> <p>出席委員19名 於) 組合会議室 pm4:00</p> <p>近藤理事長からの挨拶</p> <p>10月18日～21日までフィリピンのマニラに直納部主催の海外視察研修会に行ってきた。フィリピンでも古紙需要が非常に多くある事を認識した。又、17日には印刷工組を訪問し、情報交換を含む会議を持つ事で合意した。24日には静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会があるので、本日は活発な意見をお願いしたい。</p> <p>1、海外視察研修について(フィリピン)</p> <p>現地の家庭紙メーカー、ノア、パターン、メガパックの3社を視察した。</p>
--	---	---	--	---	---	--	--	--	--	--	---

ノア社：新聞、雑誌を含む裾物は高くてダメであった。ただ、事前に送ってあったケント、オフィスパック、オフィス古紙は、価格が合えば使いたい要望があった。DIP設備は持っていて100%古紙を使用している。

オフィス古紙、シュレッダー、残本、その他は、安いコストで選別している。古紙在庫は3000トンで需要期は、1月～6月。さらなる在庫の積み置きをしたいとのこと。

バターン社：フィリピンの大手、タイプコの傘下。ケント、模造、上白を使用。新聞用紙、ティッシュは品質基準が厳しい。禁忌品の2分の1以下はダメ。ワックス、プラスティック、ロープもダメである。インターナショナルのスタンダードに合わせている。上白、裁落、ミックスがほしいとのこと。

メガパック社：イギリスから禁忌品のペーパーを輸入して人回戦術で選別をしていた。原紙の加工場では手作業でボックスを作っていた。

2、市況全般について  
家庭紙原料は8月、10月と2円ずつの価格修正があった。アメリカも古紙が上がっている。消費が冷え込んで物流が落ちてきている。段ボール古紙は、天井が見えない推移で

ある。

3、各品目別

産業古紙全般：非常にタイトである。輸出は、コートが入って上白に影響がでている。

家庭紙原料：古紙の発生が回復しない。家庭紙メーカーは先々の状況を知りたがっている。洋紙メーカーの動向によってどうなるか。もう一段、変化が起こるのではないか。

段ボール：輸出価格が上がっている。

新聞、雑誌：現在の価格は輸出価格により決まる状況である。洋紙メーカーは、月間30万トンとなかなか先が見えてこない。

上台紙：雑誌と共に動いている。

返本、雑誌：「タイト感」が続いている。返本は2円の修正があった。

オフィス系：雑誌に左右されている。発生にバラつきがあり雑誌に白系が混ざる傾向にある。又、製品の価格修正も一部しかしていない。古紙の発生が必要に対して追いつくのか。

4、共販輸出について

現在の取引業者との価格設定で市場より安い輸出価格での取引となっている。(株)松本光春商店との取引価格は、  
7月：店頭渡し 17円50銭/kg ・ 船橋持

込18円50銭/kg ・ 組合助成金 なし

8月・9月：店頭渡し 17円50銭/kg ・

船橋持込18円50銭/kg ・ 組合助成金 1円

50銭/kg

10月：店頭渡し 20円/kg ・ 船橋持込21

円/kg ・ 組合助成金は、現在検討中

今後の共販輸出についてどう対応したらいいか。

国内より価格が下がったら止めた方がいい。

組合の助成金が1円程度であれば続ける。

\*11月からについては10月29日に(株)松本

光春商店、(株)ジェーオーピー、豊田通商(株)の3社より見積りを取って、今後の今後の共販事業をどうするか決める。

古紙センター

**業務委員会** (平成19年10月25日(月))

pm1:30 於 古紙センター会議室

(1)古紙の需要・市況動向について

紙面の都合により詳細数字は割愛させていただきます。

(2)公益法人制度改革への対応について

(3)平成19年度デユース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰について

全原連役員会議 第5回

〔平成19年9月27日(水)〕

p.m.2:45～4:30 古紙再生促進センター

理事・監事56名：出席47名

(内、委任出席19名)欠席9名

(1) 古紙再生促進センター関係

業務委員会(10月25日開催)

\*公益法人制度改革への対応について

・「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等が制定され、既存の公益法人は、「一般」又は「公益」を選択し、

平成25年11月30日までに内閣府に移行手続きをする必要がある。(古紙再生促進センターとしては「公益」へ移行)

\*平成19年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰について

・3R推進委員会では平成19年度の受賞者が関東地区委員会より2団体が決定。

「有限責任中間法人エコ・アソシエイツ」イトーヨーカ堂、IV資源推進協力会

\*イベントの予定

・紙リサイクルセミナー：10月30日(火) 13:00～16:00 虎ノ門・発明会館ホール  
・リサイクルペーパーフェア：11月2～4日  
イトーヨーカドー甲府昭和店

・エコプロダクト2007出展：12月13～15日 東京ビックサイト東展示場

(全原連協賛につき涉外広報委員会に協力依頼)

\*業務委員会等の予定

・11月業務委員会

(平成19年11月22日(木) 13:30～センター会議室)

・平成20年新年互例会

(平成20年1月10日(木) 13:30～ホテルグランドパレス)

・1月業務委員会

(平成20年1月25日(金) 13:30～センター会議室)

(2) 段ボールリサイクル協議会関係

\*第2回運営委員会報告(9月28日開催)

・賛助会員加入及び3R推進団体連絡会6年度年間スケジュール(資料参照)。

(3) 総務財務委員会(10月19日開催)

・9月までの総務財務内容予算通り順調に推移。

(4) 近代化推進事業関係

経営革新委員会

安全推進事業関係

\*「配布予定時期：平成19年10月末、安全手帳」配布の件

製作部数：20,000部、配布部数：18,000部

配布部数は安全ポスター配布数を基に各単組へ送付する。

「エコアクション21」合同認証取得の件

・平成20年度より5社単位で予算付け可能になるので(エコアクション事務局)引き続きグループ認証事業を継続する予定。

需給委員会(10月25日開催)

海外視察調査について

視察候補地：インド、日程：11月15～21日(5泊7日)。

IT推進委員会

11月21日(水)全原連・関東合同会議開催  
ホームページリニューアル及び見直しを検討。

涉外広報委員会(8月3日開催、近畿地区)

エコプロダクト2007出展に全原連協賛パネル作成。

全原連「ロゴマーク」使用規定作成。

行政に対するアンケートを関資連と合同で

<p>実施予定。</p> <p>(5) 第1回認定会議開催(10月25日) 「古紙商品化適格事業所」認定についての承認事項</p> <p>1) 地域外事業所の認定申請の取り扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全原連傘下単組の組合員の場合は当該単組に申請用紙を回送し、当該単組の承認を得て再申請する。</li> <li>・ 上記に該当しない組合員の場合は、当該組合員に申請用紙を返送し、当該組合員より事業所を管轄する単組に再申請する。関係単組は組合加入を前提として申請受諾を決定する。</li> <li>・ 実態不明事業所の申請取扱については単組関係支部等に確認して受理する。</li> </ul> <p>2) 子会社、孫会社、下請会社等、別法人事業所の申請取扱について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記に係る法人は「別法人格」として管轄単組に加入を条件に申請を授受する。</li> </ul> <p>3) 全原連組織未加入地域の事業所申請について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県(臨時処置として任意団体「全原連新潟ブロック」を結成し当該団体の長名で</li> </ul>	<p>申請する)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山梨県(静岡県商組経由で申請する)。</li> <li>・ 鳥根県・鳥取県(広島県、岡山県、山口県商組を母体として商工組合を結成することで行中、結成後申請する)。</li> <li>・ 高知県、徳島県、愛媛県(香川県商組を母体として商工組合を結成後申請する。時間の制約が生ずる場合は任意団体「全原連高知徳島愛媛ブロック」で申請する)。</li> </ul> <p>* 以上についてはいずれも平成20年度内を目処に全原連組織強化のため何らかの形で組合として組織の構築をする。但し平成21年度内に第一次更新を予定しているので平成19年度内申請が望ましい。</p> <p>4) 認定料の徴収について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認定料金は1事業所10,000円とし当該単組が組合員へ請求し徴収する。</li> <li>・ 認定料金の内、2,000円を当該単組の事務経費とし、8,000円を全原連事務局へ納入する。事務経費は認定プレート制作費、送料、認定証制作費送料等の費用とする。</li> </ul> <p>5) 認定事項に係る全原連ロゴマークの使用</p>	<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロゴマーク使用規定を涉外広報委員会で作成、それに準じて使用する。</li> <li>・ 認定事業所の名刺等へのロゴマーク使用については上記の使用規定の範囲で原則許可する。</li> <li>・ 「古紙リサイクルアドバイザー」認定についての承認事項</li> </ul> <p>1) 認定料の徴収について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認定料金は1名3,000円とし当該単組が組合員へ請求し徴収する。</li> <li>・ 認定料金の内、1,000円を当該単組の事務経費とし、2,000円を全原連事務局へ納入する。事務経費は認定証、認定手帳制作費送料等の費用とする。</li> <li>・ 認定に係る全原連納入金は経営革新委員会名で特別会計として処理する。</li> </ul> <p>尚、上記の認定承認事項についての事務手続き等は本年度中に全原連事務局会議を開催する。</p> <p>次回開催：役員会 平成19年11月22日(木) 14:45～16:15 (尚、役員会後、第2回認定委員会を開催す</p>
---	---	---

る)

新年会

平成20年1月25日(金) 浅草ビューホテル

## 編集後記

広報部部长 清水弘允

11月号は、新年号を前にして特徴を出しにくい号ですので、原稿に苦労しました。それに加え、7月号、9月号の発行遅れを取り戻すため準備期間も短く、原稿を書いていた方々には無理を言いました。ご協力有難う御座いました。

さて新聞を読んでいたら、代表的な国語辞典である「広辞苑」が10年ぶりに改訂されると言う記事が出ていました。「うざい」「いけ面」「デパ地下」「メル友」など1万語が追加されます。確かに昔はなかった言葉だと思えました。しかしそれ以前の改定で掲載された例として、「いまいち」「どたキャン」「素っぴん」などが挙げられていましたが、しばしば使っている言葉ですから、なんとな

く昔からあった言葉のような気がしました。一方で知らないうちに消えてしまった流行語も、意識はしませんが沢山あるのでしょうか。そう言えば我々の業界でも、新しく登場した言葉、使われなくなった言葉があるのではないのでしょうか。

「タテ線」「車間距離」などの言葉は、最近の売り手市場がもたらした表現ではないのでしょうか。建値、プレミアム、実勢相場、輸出価格、一物二価、内外格差など頻繁に業界紙に登場しますが、それだけ仕入競争が激しく、それと裏腹に売り方に関しても工夫されているのでしょうか。売り手、買い手が取引の表現に苦労している様が目に浮かびます。

「オフィスバック」「込頁」「オフィスミックス」などの言葉は、オフィス古紙の分野が開拓されて出来た新しい用語です。「DIP」「RPF」「CIF」「OCC」など頭文字言葉が頻繁に使われるのも、メーカーがより安い原料を探している事、技術革新が進んでいる事、より安い燃料を追求している事、輸出が多くなった事の現れです。社会現象として西部劇でもないのに「アパッチ」なる言葉も表れました。

言葉は世の変化を映す鏡です。人間の考え、

行動を表現するものである限り、時代が移り変わると共に、今後も言葉は移り変わっていくことでしょう。